

# 施策評価表

施策番号	- - 2	重点プラン	-	施策名	交通の利便性を生かした産業拠点の整備	所管課	都市整備課	関係課				
------	-------	-------	---	-----	--------------------	-----	-------	-----	--	--	--	--

## 1. 施策の概要

対象	和光北インター地域土地区画整理事業区域地権者及び関係権利者
目的	東京外かく環状道路などの優れた交通の利便性を生かし、和光北インター地域に先端的な研究・開発施設及び物流関連施設等の新たな産業拠点を整備する。
現状 (計画策定時)	和光北インター地域土地区画整理事業は、新産業・物流業務地区の創出に向け、平成21年度12月に事業認可を取得し、施行を開始しました。 市民からは、早期整備を望む声が多くなっている。
課題 (計画策定時)	新産業・物流業務地区として整備を進めるため、企業誘致を進める関係機関や和光理研インキュベーションプラザとの連携を図ることが必要である。 土地区画整理事業による新たな産業拠点の整備に当たっては、近隣住民の生活環境に配慮する必要がある。

## 2. 施策指標の達成度(定量的評価)

指標名	単位	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32	平成27年度目標値に対する進捗率(%)	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値		目標値
計画 施策に 基づく	和光北インター地域土地区画整理事業整備率	%	目標値	/	/	0.0	1.0	/	/	100.0	-	0.0
			実績値	0.0	0.0	0.0	/	/	/	/	/	
補足 指標			目標値	/	/	/	/	/	/	/	/	
			実績値	/	/	/	/	/	/	/	/	

施策指標の達成度に関する評価

A 目標をほぼ達成する	B 目標をやや下回る	C 目標を下回る	D 目標を大幅に下回る	B	地区内の土地を最大限の有効活用をする為に事業計画を見直し、又、事業を円滑に進める手段として業務代行方式を採用した。
-------------	------------	----------	-------------	---	---

## 3. 施策の取組内容の達成度(定性的評価)

取組番号	取組内容	取組内容の評価		事務事業名	課所名	備考	事務事業 評価結果	事業費									今後の方向性			
		活動の成果・進捗状況	未達成事項・ 解決していない課題					平成22年度決算額(千円)			平成23年度決算額(千円)			平成24年度予算額(千円)			構成事 業の受 当性	優先度		
								総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)		1次 評価	2次 評価	
	有効な土地活用の推進	土地区画整理事業に必要な各規定の決定を行っているところであり、土地活用までには進んでいない。	仮換地の指定が遅れている。	和光北インター地域土地区画整理組合活動支援	都市整備課		このまま継続	30,000	0	30,000	57,000		57,000	200,000	175,000	25,000		A	B	
	地区計画の活用による良好な環境形成	既に計画されている。	事業計画の変更に合わせ見直しが必要となる。	和光北インター地域土地区画整理組合活動支援(重複)	都市整備課	/	/	/	/	/	0	/	0	/	/	/	/	/	/	/
	関係機関との連携による都市基盤整備	事業計画の変更に向け作業中である。	事業計画の変更に合わせ関係機関との調整が必要となる。	和光北インター地域土地区画整理組合活動支援(重複)	都市整備課	/	/	/	/	/	0	/	0	/	/	/	/	/	/	/

## 4. これまでの取組に関する施策全体の総合評価

総合評価	理由(施策全体の進捗状況・解決していない課題など)
A 順調に進んでいる B ほぼ順調に進んでいる C あまり順調に進んでいない D 順調に進んでいない	事業計画の見直しが必要となったため、事業が遅れているが、業務代行方式を採用することとなり、今後は順調に進むものと思われる。
当市のサービス水準	
A 高い B 普通 C 低い	市の補助金は、他市に比べ非常に良い。減歩率などから見ても事業に賛同してもらえる率を確保している。

## 5. 今後の施策の方向性(施策の推進に向けた今後の施策の展開や事業の見直し等)[1次評価(所管課)]

1次評価	平成22年4月の土壌汚染対策法の改正に伴い、現事業計画にはその費用は含まれていないことから、事業費の増大が予想される。事業計画の資金計画を見直しているが、市の補助額については当初の補助額とする。	対象者の方向性(増減)(%)	基本目標に対する貢献度
		100	A

## 6. 今後の施策の方向性[2次評価(行政評価委員会)]

2次評価	今後の業務代行方式による事業の進捗状況を確認し、適切な組合運営のための支援を行うこと。また、事業費については、当初予定額を超えないこと。	サービス水準	コスト
		現状	方向性(目標水準)
		B	(B)

## 7. 今後の施策の方向性(次年度行政経営方針)

サービス水準	コスト	コメント
現状	方向性	(コスト)コストの方向性としては「」であるが、具体的な増額幅については、事業の進捗状況、他の事業費総額等を考慮し決定する。
B		

# 施策評価表

施策番号	- - 3	重点プラン	-	施策名	良好な景観形成の推進	所管課	都市整備課	関係課				
------	-------	-------	---	-----	------------	-----	-------	-----	--	--	--	--

## 1. 施策の概要

対象	緑・湧水・農地・河川・社寺・公園・建物・鉄道・道路などにより形成される「和光市の景観」
目的	良好な景観を守り、育て、創り、「まちに愛着を抱き、誇りに感じる“都心に近い緑豊かなふるさと”景観づくり」の実現を目指す。
現状 (計画策定時)	本市では、人口増加による都市化の進行に伴い、緑や良好な景観など快適な生活環境が失われつつある。市民提案でも、景観を損ねる派手な看板や建物への規制が必要という意見があるなど市の景観に対する市民意識が高まっている。本市では、県の景観条例に基づく景観の規制誘導を行ってまいりましたが、平成22年4月からは、市独自の景観条例及び景観計画を施行し、今後は、同条例計画に基づき、景観の規制誘導を進めていく。
課題 (計画策定時)	快適な生活環境を維持するためには、都市と自然の調和を図り、地域コミュニティ活動などを生かしたまちづくりが必要である。良好な景観を形成するためには、市民、事業者及び行政の協働による景観づくりが求められている。また、地域の景観を損ねている既存の建物などについては、その対応が求められている。

## 2. 施策指標の達成度(定量的評価)

計画 施策 指標	指標名	単位	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32	平成27年度目標値 に対する進捗率 (%)
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
計 画 指 標	市景観計画に基づく景観重要建造物及び景観重要樹木の指定件数	件	目標値			0.0	0.0			1.0	2.0	0.0
			実績値	0.0	0.0	0.0						
補 足 指 標			目標値									
			実績値									

施策指標の達成度に関する評価

A 目標をほぼ達成する B 目標をやや下回る C 目標を下回る D 目標を大幅に下回る

理由: A 今年度については当初の計画通り、景観重要建造物及び景観重要樹木の指定について景観審議会において審議を行い、方向性を定めた。

## 3. 施策の取組内容の達成度(定性的評価)

取組 番号	取組内容	取組内容の評価		事務事業名	課所名	備考	事務事業 評価結果	事業費						今後の方向性					
		活動の成果・進捗状況	未達成事項・ 解決していない課題					平成22年度決算額(千円)			平成23年度決算額(千円)			平成24年度予算額(千円)			構成事 業の妥 当性	優先度	
								総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)	総額 (A)	特定財源 (B)	一般財源 (A-B)		1次 評価	2次 評価
地域性豊かな景観の形成	一定規模以上の建築物等について、和光市景観条例・景観計画に基づき外壁の色彩などの届出をしてもらうことにより、地域の特長を生かした良好な景観形成がなされるよう誘導した。	今後、左記届出制度の他に、目的達成のために必要な具体的方策を、景観審議会の意見を踏まえながら検討していく。	景観形成推進	都市整備課		このまま継続	26	0	26	26	0	26	52	0	52		B	B	
			和光市景観マップ作成業務	都市整備課	H23のみ	終了(廃止・休止)	0		0	1,363	1,363	0	0	0					
都市と自然との調和を大切にす る景観の形成	一定規模以上の建築物等について、和光市景観条例・景観計画に基づき外壁の色彩などの届出をしてもらうことにより、地域の特長を生かした良好な景観形成がなされるよう誘導した。	今後、左記届出制度の他に、目的達成のために必要な具体的方策を、景観審議会の意見を踏まえながら検討していく。	景観形成推進(重複)	都市整備課					0		0								
			和光市景観マップ作成業務(重複)	都市整備課						0		0							
生活・暮らしに根ざし、歴史・文化の 伝承や地域の交流を通じた景 観の形成	和光市景観マップの中で良好な景観や歴史的・文化的な価値がある施設を紹介することで、そういった資源の継承を促す啓発に寄与した。	今後、様々な啓発活動の実施の他に、目的達成のために必要な具体的方策を、景観審議会の意見を踏まえながら検討していく。	景観形成推進(重複)	都市整備課					0		0								
			和光市景観マップ作成業務(重複)	都市整備課						0		0							
市民生活及び産業活動の活性化 に資する景観の形成	今年度、具体的な取組は行っていない。	今後、目的達成のために必要な具体的方策を、景観審議会の意見を踏まえながら検討していく。	景観形成推進(重複)	都市整備課					0		0								
			和光市景観マップ作成業務(重複)	都市整備課						0		0							
市民、事業者及び行政の三者の協働による景観の形成	今年度、具体的な取組は行っていない。	今後、目的達成のために必要な具体的方策を、景観審議会の意見を踏まえながら検討していく。	景観形成推進(重複)	都市整備課					0		0								
			和光市景観マップ作成業務(重複)	都市整備課						0		0							

## 施策評価表

施策番号	-	-	3	重点プラン	-	施策名	良好な景観形成の推進
------	---	---	---	-------	---	-----	------------

### 4. これまでの取組に関する施策全体の総合評価

総合評価	理由(施策全体の進捗状況・解決していない課題など)
A 順調に進んでいる B ほぼ順調に進んでいる C あまり順調に進んでいない D 順調に進んでいない	B 当施策については、長期的視点に立ち目標達成に向けた取組を進めていくべきものであり、2年目の現時点において目に見える形での成果は出ていないが、ほぼ当初の計画どおりに進んでいる。
当市のサービス水準	理由(近隣他市との比較)
A 高い B 普通 C 低い	B 当市においては景観10選の選定や景観マップの作成など独自の事業を行っているが、届出制度による景観誘導などはほぼ同様の実施をしており、サービス水準が高いとまではいい難い。

所管課	都市整備課	関係課				
-----	-------	-----	--	--	--	--

### 5. 今後の施策の方向性(施策の推進に向けた今後の施策の展開や事業の見直し等)[1次評価(所管課)]

1次評価	現在行っている届出制度による景観誘導や各種の啓発活動、景観重要建造物及び景観重要樹木の指定に向けた取組は今後も続けていき、さらに課題解決に向けた取組の遂行に必要な具体的な方策を検討し、実施していく。	対象者の方向性(増減)(%)	基本目標に対する貢献度
		100	B

### 6. 今後の施策の方向性[2次評価(行政評価委員会)]

2次評価	平成23年度に作成した景観マップを有効に活用すること。また、景観条例、計画に基づいた運用に努めること。今後の施策としては、主に適切な審議会運営が中心となるため、目標水準をCとした。	サービス水準		コスト
		現状	方向性(目標水準)	方向性
		B	(C)	

### 7. 今後の施策の方向性(次年度行政経営方針)

サービス水準	コスト	コメント
現状 B	方向性	方向性
		(サービス) 将来のまちづくりのため、都市計画マスタープラン、用途地域、景観を含めた全体的な見直しを検討する。(コスト) 諸計画の見直しに伴う委員会設置費用等の事業費を増額分とする。

# 施策評価表

施策番号	- - 4	重点プラン	-	施策名	良好な居住環境の形成
------	-------	-------	---	-----	------------

所管課	都市整備課	関係課	
-----	-------	-----	--

## 1. 施策の概要

対象	土地区画整理事業区域地権者及び関係権利者
目的	安心と安らぎを感じ、本市に長く住みたいと思うよう、計画的な土地整備を行い、良好な居住環境を形成する。
現状(計画策定時)	計画的な住宅整備を行い、良好で災害に強い住宅地を形成するため、市内3地区で組合施行による土地区画整理事業を進め、平成21年度末で事業費ベースの進捗率が中央第二谷中地区で86%、越後山地区で25%となっており、また、整備率は中央第二谷中地区で、61.1%、越後山地区で40.2%となっており、白子三丁目中央地区では、平成21年11月に事業認可を取得し事業を進めている。市民意識調査では、「快適な住宅地が整備されている」という項目についての満足度が37.1%と低水準にとどまっており、3地区の早期整備を推進し良好な居住環境を提供することが望まれている。
課題(計画策定時)	土地区画整理事業を地域との協力により進めていくことが求められている。

## 2. 施策指標の達成度(定量的評価)

計画策定時	指標名	単位	年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H32	平成27年度目標値に対する進捗率(%)
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
計	中央第二谷中土地区画整理事業整備率	%	目標値			75.0	82.0			100.0		73.9
			実績値	61.1	66.2	73.9						
指	越後山土地区画整理事業整備率	%	目標値			55.0	65.0			100.0		48.3
			実績値	40.2	42.3	48.3						
標	白子三丁目中央土地区画整理事業整備率	%	目標値			0.0	1.0			100.0		0.0
			実績値	0.0	0.0	0.0						
補			目標値									
			実績値									
足			目標値									
			実績値									

施策指標の達成度に関する評価

A 目標をほぼ達成する	B 目標をやや下回る	C	理由
C 目標を下回る	D 目標を大幅に下回る		越後山土地区画整理地区において、仮換地指定に伴い行政不服審査請求が6件提出され、全て棄却となった。しかし、そのうち2名が国土交通大臣に再審査請求を提出し、審議が継続している。

## 3. 施策の取組内容の達成度(定性的評価)

取組番号	取組内容	取組内容の評価		事務事業名	課所名	備考	事務事業評価結果	事業費									今後の方向性		
		活動の成果・進捗状況	未達成事項・解決していない課題					平成22年度決算額(千円)			平成23年度決算額(千円)			平成24年度予算額(千円)			構成事業の妥当性	優先度	
								総額(A)	特定財源(B)	一般財源(A-B)	総額(A)	特定財源(B)	一般財源(A-B)	総額(A)	特定財源(B)	一般財源(A-B)		1次評価	2次評価
快適な住宅地としての土地利用		越後山土地区画整理事業について、調整池工事が終わり、その周辺のインフラ整備が可能となった。 白子三丁目中央土地区画整理事業について、埋蔵文化財発掘調査と仮換地指定に向けて、権利者と調整中。 中央第二谷中土地区画整理事業について、建物移転や道路整備率が約9割に達している。	事業に同意していない地権者との交渉 出来るだけ多くの同意者を得られる仮換地指定、埋蔵文化財発掘調査の推進 限られた期間と資金での事業運営	越後山土地区画整理組合活動支援	都市整備課		このまま継続	28,500	0	28,500	374,980		374,980	100,000	0	100,000		A	B
				白子三丁目中央土地区画整理組合活動支援	都市整備課		このまま継続	30,000	0	30,000	52,500		52,500	171,200	152,700	18,500		A	A
				都市計画道路整備負担金(中央第一谷中土地区画整理事業)	都市整備課		このまま継続	72,500	0	72,500	24,750		24,750	43,965	39,500	4,465		A	C
				地方特定道路整備負担金(中央第二谷中土地区画整理事業)	都市整備課		このまま継続	35,000	31,500	3,500	15,000		15,000	15,000	13,500	1,500		A	C
				中央第二谷中土地区画整理組合活動支援	都市整備課		このまま継続	465,875	114,074	351,801	649,073		649,073	642,000	527,150	114,850		A	B
				都市計画業務	都市整備課		このまま継続	1,159	2	1,157	1,186		1,186	1,987	1	1,986		A	B
				都市基盤整備基金積立	都市整備課		このまま継続	100,401	400	100,001	232,177		232,177	124	124	0		A	B
				都市計画基礎調査	都市整備課	H23のみ	終了(廃止・休止)			0	4,410		4,410	0	0	0			
											0		0						
											0		0						

## 4. これまでの取組に関する施策全体の総合評価

総合評価	理由(施策全体の進捗状況・解決していない課題など)
A 順調に進んでいる B ほぼ順調に進んでいる C あまり順調に進んでいない D 順調に進んでいない	理由(施策全体の進捗状況・解決していない課題など) 第二谷中地区は、事業の最終段階となり反対者との交渉に入っている。越後山地区は、事業に反対者の再審査請求の審議中で膠着状態となっている。白子三丁目中央地区では埋蔵文化財の調査が遅れている。
当市のサービス水準	理由(近隣他市との比較)
A 高い B 普通 C 低い	総事業費に対しての市の補助率を指標とする。第二谷中 44.5%、越後山 57.7%、白子三丁目 22.0%、朝霞市根岸台 33.1%、志木市西原 3.4%、新座市野火止 12.8%と当市の組合に対する補助率は高い水準となっている。

## 5. 今後の施策の方向性(施策の推進に向けた今後の施策の展開や事業の見直し等)[1次評価(所管課)]

1次評価	市の財政が厳しい状況であるが、各組合に対する補助は必要である。	対象者の方向性(増減)(%)	基本目標に対する貢献度
		100	A

## 6. 今後の施策の方向性[2次評価(行政評価委員会)]

2次評価	各区画整理事業の進捗は様々であるが、早期の完了を目指すとともに、計画の遅れにより事業費の増大が発生しないよう、各組合に適切な支援等を行うこと。	サービス水準	コスト
		現状	方向性(目標水準)
		A	(A)

## 7. 今後の施策の方向性(次年度行政経営方針)

サービス水準	コスト	コメント
現状	方向性	(サービス)将来のまちづくりのため、都市計画マスタープラン、用途地域、景観を含めた全体的な見直しを検討する。(コスト)諸計画の見直しに伴う委員会設置費用等の事業費を増額分と
A		